



TITLE:

<座談会>官庁訪問NOW

AUTHOR(S):

本誌編集委員

CITATION:

本誌編集委員. <座談会>官庁訪問NOW. 公共空間 2012, 9: 25-27

ISSUE DATE:

2012

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/169754>

RIGHT:

本誌掲載の写真・イラスト・記事の無断転載・二次利用はお断りいたします

〈座談会〉

官庁訪問NOW

国家公務員を目指す者にとって、「官庁訪問」

が最後の砦として立ちほだかる。およそ二週間の官庁訪問では、日本を背負う為に満身創痍の闘いが繰り広げられる。今回は、予備校の資料や大衆雑誌では取り上げられない、受験者の心情に迫ることにした。(司会 久保田康平)

＊各人の進路・Aさん・外務省、Bさん・外務省、Cさん・厚生労働省、Dさん・独立行政法人

司会 官公庁で働きたいと思った本当の理由は何？

A 「学部時代の同期が外務省に内定して、彼でも行けるなら俺も…的な。それから、彼に外務省って意外とタバコ吸っている人多いよと言われたから。そこに親近感を覚えた。それから、将来、政策をテーマにしたシンクタンクを作りたいなっていうのがあって。その時に顧客になる政治家との人脈、それから政策の現場で実際

に働くことによるスキルアップができる二つのことを同時にできる場所だから。」

B 「長いことサッカーやってきて、日本代表に憧れていたし、日本代表として仕事するっていいよなと思った。日の丸背負って働くのはかっこいいなと。」

C 「自分が学生としてサークル、試験勉強等を行うことができたのは奨学金制度のお陰。そんな経験から「教育」って教える、教えられるだけじゃなくて、その裏にあるお金のことや、制度のこともあるんだなど。教育現場の裏側で全国 of 教育行政、文部行政に対する疑問があり、それをなんとかできたらなという思いから文科省に興味を抱いた。厚労省に志望が変わったのは昨年の官庁訪問の時。自分の中に「人が力を発揮できる社会を作りたい」という思いがあった。ある職員と話して、少子高齢化をこれから本格的に迎える中で、そもその生活が成り立つための医療や生活保護の問題があるのに教育だけでいいのかと思うようになった。今後四〇年働くことを考えたら、厚労省の方がやれることが多くあるのかなと。」

司会 交通手段と前日、当日の様子は？

A 「二日前の夜行バス(三列シート)。南千住のユースホテルで一泊一八〇〇円。前日は大学院の人と会っていた。週末は友人と一緒に飲んでいた。当日は八時前に到着した。四番だったかな。」

B 「前日の朝の新幹線。一泊三〇〇〇円のビジネスホテル。前日は志望動機を確認していた。八時ちょうどに到着して三〇人位いた。」

D 「前日に新幹線で。願掛けとかはしないけど、禅寺で精神統一した。当日は七時半起きで八時入り。周りは気になるタイプ。ホテル泊だったけど、ユースホテルに泊まるのは理解できない(笑)。人生賭けた勝負するのに、後悔する要素は無くしておこうとは思う。万全にしておくことは大事かなと。」

司会 官庁訪問中、戦略的になった部分は？

C 「正直に言うとな戦略的な部分はある。だって、普通に生きてきて「あなたの軸は何？」と聞かれて即答できる人って逆に変じゃないですか。厚労省、経産省、文科省のどこを回っても違う自分を見せていたし。ただ、嘘じゃない範囲で相手に合わせて自分を見せていくのが官庁訪問だと思う。そもそも、経験したことのないこと

から話を作ることとは無理だし、仮に入省できても後々不幸になると思うから。」

D 「ある。ただし、自分のやりたいことと、日本の国益との繋がりは何かということは説明できた方がいい。外務省は本質的に何をすべきなのかということは理解する必要がある。官庁訪問は正直失敗したな。本音で思っていることと違うこと話していたから、自信満々に話せなかった。『日本のために』という気持ちがないわけではないが、本当に思っていたことは、『世界のため』という気持ちだった。そのために何ができるかということに関して、外務省にあるツールや、外交特権を活かしてブランドデザインを描きたいと思っていて。それをうまく使って、世界のルールメイキングをしたいというのが本音だった。しかし、外務省への思いが強すぎて、かえって本音を言えなかった。受かった人間と違うところはそこかな。」

司会 今年から試験区分が変わり、院卒者試験が導入されたが、官庁訪問中に学部生と院生に対応の差はあったか？

A 「あんまりない。原課の時に政策内容を聞かれたりしたかな。防衛省では人事面接で圧迫される対象が政策についてだったけど。卒論で、

北朝鮮について書いたと言ったら、それについては聞かれた。」

B 「原課では自分の関心のある部門に通してもらったから、その部分に関しては聞かれた。それは学生と実際に働いている人のギャップを埋めるための意見交換的な感じかな。人事課の面接では、T P P について聞かれた。」

C 「かなりあった。学部生と大学院生では大きく違った。大学院を中退する前提で官庁訪問しているにも拘わらず、院生として扱われて、政策のことを多く聞かれた。公共政策大学院の院生として見られている部分はあった。」

司会 官庁訪問中に印象に残ったことは？

A 「初日の人事院面接の後の空き時間が長くて、その時タバコ吸いたくなって…(笑)。ちょうどその時、原課の面接が入ってしまった。その時の職員さんが説明会で京大に来た時に、喫煙室にいたこと思い出したから、業務説明が終わった後で、官庁訪問中にタバコ吸っていいか聞いた。その後、待合室で待っていたら呼び出されて、若手の職員に『電話かかってきて、君にタバコ吸わせてあげろって言われたし、行こう!』って言われて。」

B 「第五クールで、官房長と面接する機会があった。サッカーのゴールキーパー経験者ということでは伝えてあったから、そこで偉い人達から『じゃあさ、シュート打たれる瞬間の顔やってみてよ!』と言われた。だから、PKの時の構えをしたよ。官房長を睨み付けたらその後で『あいつ俺のこと睨めつけたな…』みたいなこと言われたけどね(笑)。」



司会 民間企業との両立について。

B 「本エントリーは十五社前後。三月下旬から四月上旬にかけてES書きながら勉強したのはきつかった。そこは根性で。仕事選びだからあんまり見ないで決めちゃうのはもったいない。可能性は減らさずに色々な業種を見た。プレエントリーに関しては四〇社位。銀行、商社、金融の分野。終わりにしたのは四月十五日くらいかな。」

A 「十社位。銀行・商社・海運かな。もともと外務省と防衛省の省庁の志望度は高かったからそれほど民間企業に注力しなかった。イメージで決めた部分は大きくて、見ていく中で徐々に、面白いなあと思うようになった。銀行が四月一日に決まって、実質四月七日くらいには終わっていたかな。」

D 「全てというわけではないけれど、内定受諾したところは本音で話した。言いたいことは全部言った。他の内定先に関しても、すんなり受かったところは一〇〇%言いたいこと言った。そういう部分では素の自分を見てくれたのかなって。企業に合わせて自分を変えるより、自分のやりたいことを軸に考えるべき。自分が何やりたいのかをはっきりさせて、相手に伝え

れば、相手もポストは用意してくれると思う。」

司会 進路先での夢は？

A 「北朝鮮の核をなくしたい。あれは、日本に向いているはず。そうだとしたらホンマに怖い。核兵器が存在すること自体をなくしたい。手段はまだ分からないけど将来にわたって取り組みたい。」

B 「具体的なことはまだ決まっていなくても、日本経済の再浮上に関係した大きな仕事をした。四〇年、五〇年かけて仕事に取り組んで、生きた証を残したいなど。」

D 「家族ができれば変わるかも知れないし、まだどうなるか分からないけど、少なくとも今の時点では、世界に目を向け続けていきたいなど。内定先も楽しいかもしれないし。いつでも出ていけるようにいつでも準備しておきたいと思っている。」

C 「少子高齢化の問題はこれから正念場を迎える。一〇年後、二〇年後の子どもと高齢世代が睨み合わないような社会を作りたい。」

司会 後輩へ一言。

C 「同じ省庁への二回目以降の訪問なら、二回目以降の訪問者も採用されている実績のあるかどうかを確かめることが重要かな。でも興味ないところを無理やり回るのは自分の人生と相談してよく考えてから。」

A 「国家公務員になるということは、就職活動における唯一の答えではないし、もう少し言うと、自分の今後の人生のための一つの手段にすぎないかもしれない。民間にも面白い企業はいっぱいあると思うし、研究の世界から日本を支えるという生き方もある。一つだけの道を見つめ続け、視野を狭くするのではなく、幅広く自身の人生観や家庭観を勘案しながら自分の進路を決めてほしい。自戒の念も込めて。」

B 「各々にとってベストな選択をしてもらいたい。就職活動という人生の局面に立った時、選択しうる仕事は様々ですから。自分で自分の可能性に蓋をせず、でも背伸びしすぎることもない仕事を見つめるべきかと。そのために公務員に限らず色々な人の話を聞いてもらえたらと思います。あれだけ多くの人に会える機会は後にも先にもなかなかありません。どうかこの貴重な機会を活かして自分にとってベストな選択をして下さい。」